

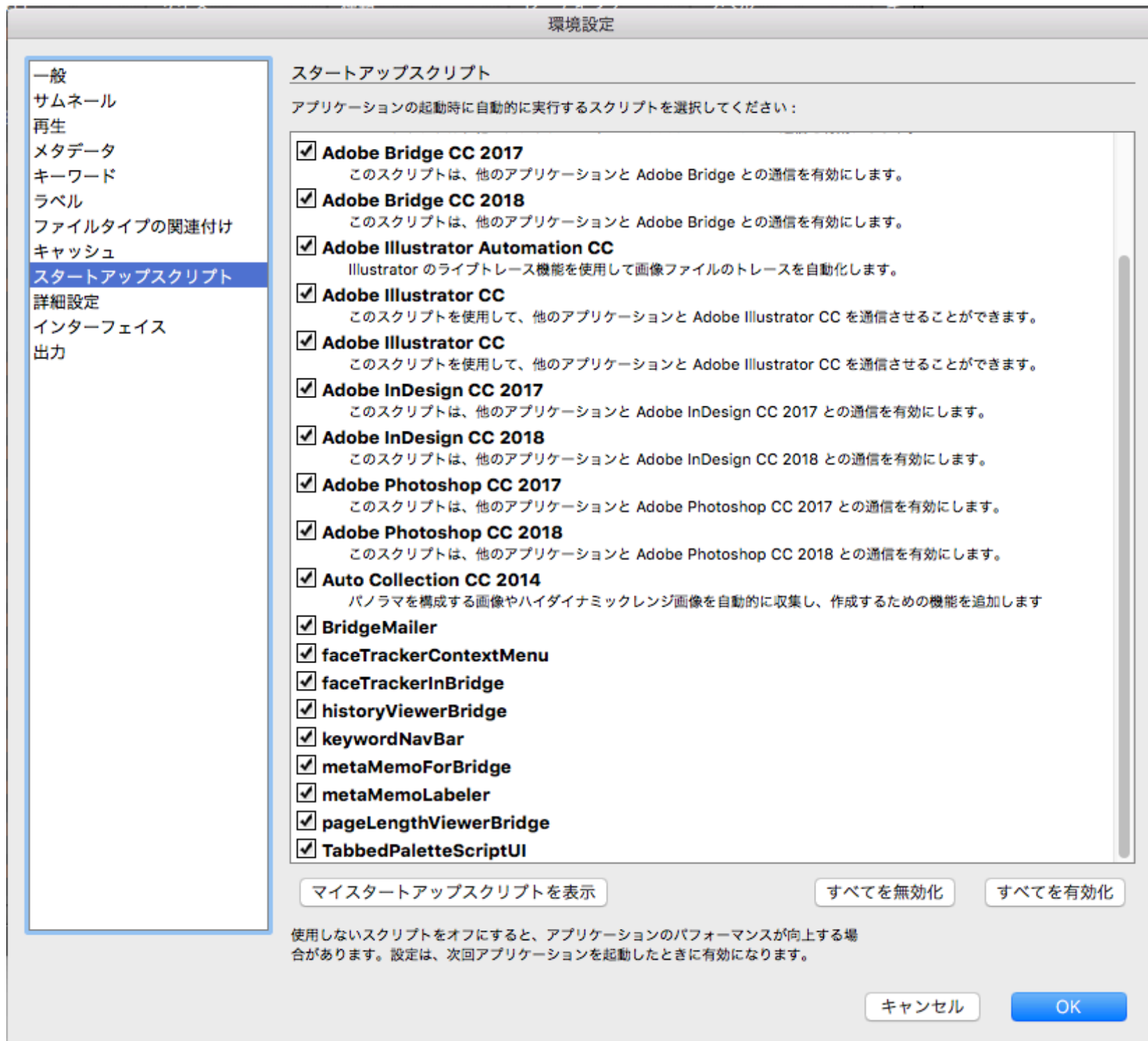


[Br] Bridge CC Scripting メニュー項目の追加について

Posted by [10 A](#) in [アプリケーション自動化総合コミュニティフォーラム \(Japan\)](#) on Mar 21, 2018 9:01:00 PM

Bridgeのスク립ティングについて

BridgeはExtendScriptをサポートしています。しかし、メニューを順番に確認してもスクリプトを実行するような項目を見つけることは出て来ません。これは設計思想の違いが絡んでいるものと思われます。Photoshop、Illustrator、InDesignといったアプリケーションは主としてスクリプトを利用することによって単純な繰り返し作業を自動的に行う等手作業の補完を行います。しかし、Bridgeではドキュメント内のオブジェクトを細かく操作するといった事はおこないませんから前述のアプリケーションの様に細かいスクリプトを実行しながら処理を進めるというワークフローは考えられていません。Bridgeではスクリプト自体がBridge自身の機能を拡張するために実装し、スタートアップ時に読み込んで利用するものとされています。



こちらの環境設定パネルのスタートアップスクリプトに登録するには下部のマイスタートアップスクリプトを表示をクリックしスタートアップスクリプトを入れておくフォルダを開き、そこにスクリプトファイルを入れておきます。もちろん開発にはESTKを利用します。デバッグ等の機能も他のアプリケーションと同様に利用可能です。

メニュー項目について

今回はメニューの構成方法に焦点を当てて解説します。

メニューを構成するには**MenuElement**クラスを利用します。このクラスには**create**メソッドが用意されていますが通常は**new**オペレータを利用して**ダイレクトにインスタンスを生成する**方法が取られます。いずれも引数が4つで、前から順番に**type**、**text**、**location**、**id**で全てStringとなっています。

以下は最小構成でサブメニュー内にコマンドを設置した場合のコードです。

```
01. var testMenu = new MenuElement("menu", "Test ", "after Help", "testMenu");
02. var testSubmenu = new MenuElement("menu", " TEST ", "at the end of testMenu", "subMenu")
03. var testCMD = new MenuElement("command", "testMenuItem", "at the beginning of subMenu", "t
04. testCMD.onSelect = function (){
05. alert(" Hi There!");
```

```

06.    }
01.    var testMenu = new MenuElement("menu", "Test  ", "after Help", "testMenu");
02.    var testSubMenu = new MenuElement("menu", "  TEST  ", "at the end of testMenu", "subMenu");
03.    var testCMD = new MenuElement("command", "testMenuItem", "at the beginning of subMenu", "testMenu");
04.    testCMD.onSelect = function (){
05.        alert("  Hi There!");
06.    }

```

ESTKのヘルプにあるオブジェクトモデルビューアでは第1引数は **menu**、**submenu**及び**command**となっています。しかしながら**submenuは実装されておらずエラーを引き起こします**。この為サブメニューを組み込む場合でも上の例の様に**menu**を利用します。実際にmenuなのかsubmenuなのかの判断は第3引数の**location**によります。上記の様に**at the beginning of testMenu**（testMenuの始まり）とか**at the end of testMenu**（testMenuの終わり）という様な記述だとtestMenuの子要素だと判断できます。また、メニュー項目の子要素に対してbeforeやafterのlocationが設定されている 場合はその子要素と同様に該当する親要素の子要素であると判断できます。複雑な書き方をしていますが、単純に**menuはメニューであり、構造により親要素・子要素となるが明示的にサブメニューだと定義する必然性がない**という事です。第2引数がメニューに表示される文字列でUnicodeであるために絵文字なども普通に表示可能です。第4引数はidです。これは一意に設定しなければならないもので、主にlocationでの位置参照に利用されます。では、一行目から解説しましょう。

```

01.    var testMenu = new MenuElement("menu", "Test  ", "after Help", "testMenu");
01.    var testMenu = new MenuElement("menu", "Test  ", "after Help", "testMenu");

```

前述の通りnewオペレータによるインスタンスの生成です。生成されるエレメントは **menu**であり、第3引数は**after Help**となっていますから**ヘルプメニューの後に配置する** ことになります。ここで利用できるのは**before <id>**、**after <id>**、**at the beginning of <id>**及び**at the end of <id>**となります。

```

01.    var testSubMenu = new MenuElement("menu", "  TEST  ", "at the end of testMenu", "subMenu");
01.    var testSubMenu = new MenuElement("menu", "  TEST  ", "at the end of testMenu", "subMenu");

```

2行目も**menu**なのですが第3引数が**at the～**となっていますから先の**testMenu**の子要素となります。その他の引数に関しては1行目の解説に準じます。

```

01.    var testCMD = new MenuElement("command", "testMenuItem", "at the beginning of subMenu", "testMenu");
01.    var testCMD = new MenuElement("command", "testMenuItem", "at the beginning of subMenu", "testMenu");

```

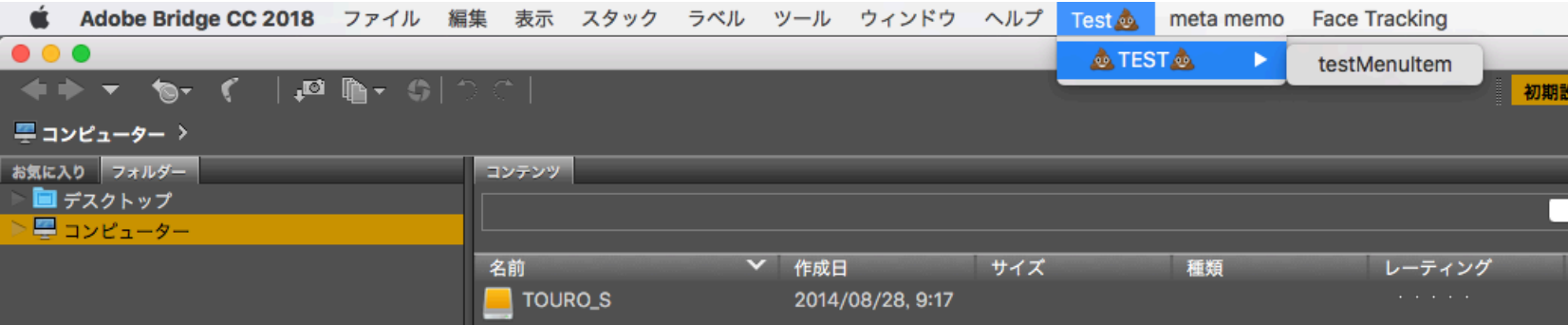
3行目は第1引数が**command**となっており、これが実際に選択されて関数を実行するためのエレメントとなります。**location**に関しても他のものと同様です。ここまででメニューの構造が完成しました。この**command**に実際の挙動を設定するのが**onSelectイベント**に設定された関数となります。

```

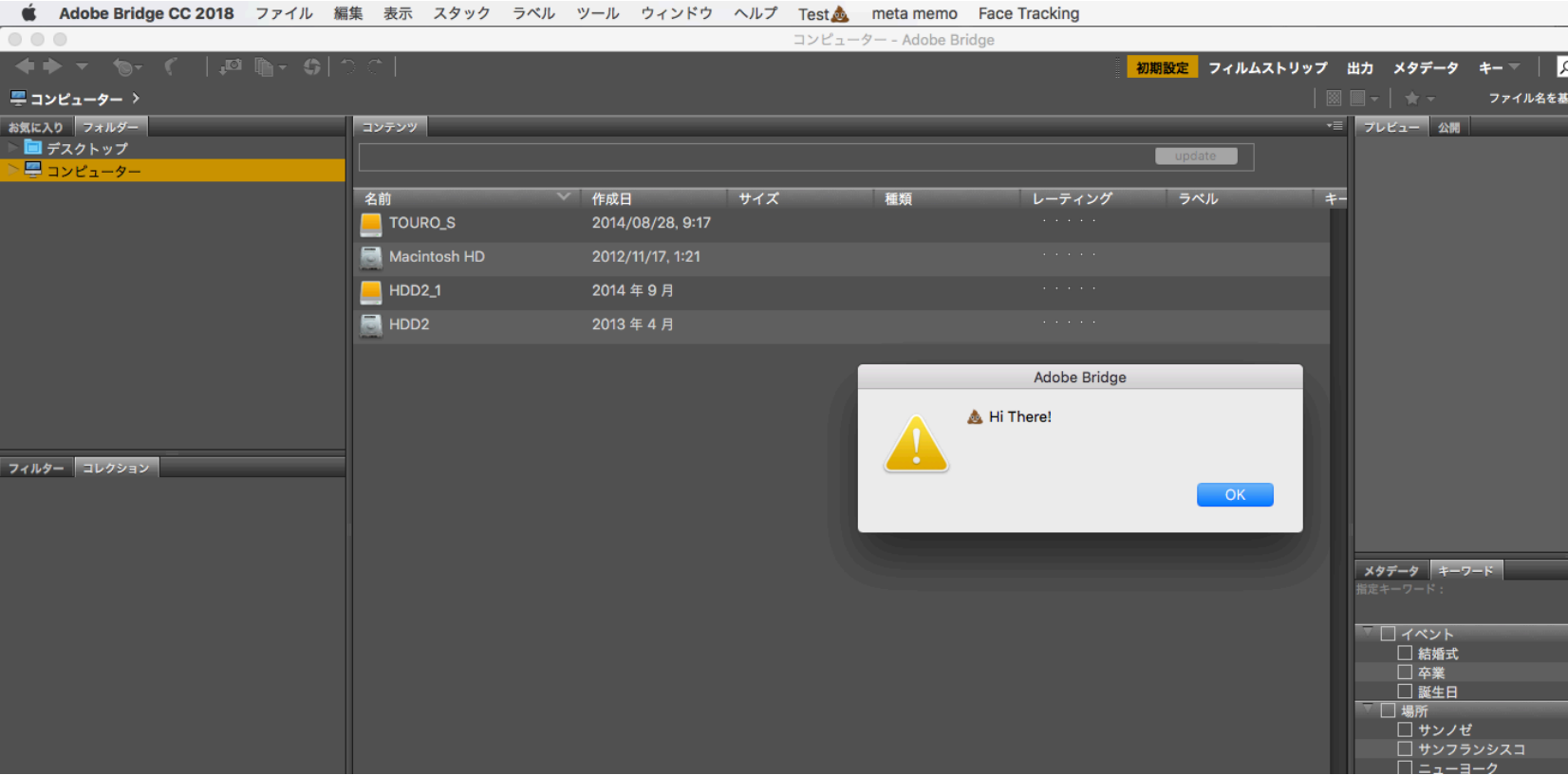
01.    testCMD.onSelect = function (){
02.        alert("  Hi There!");
03.    }
01.    testCMD.onSelect = function (){
02.        alert("  Hi There!");
03.    }

```

この様にcommandを設定したエレメントのインスタンスに対してonSelectイベントを設定します。実際にメニューを構築させるにはこのスクリプトをESTKから実行するかマイスタートアップスクリプトフォルダに保存したスクリプトを設置します。



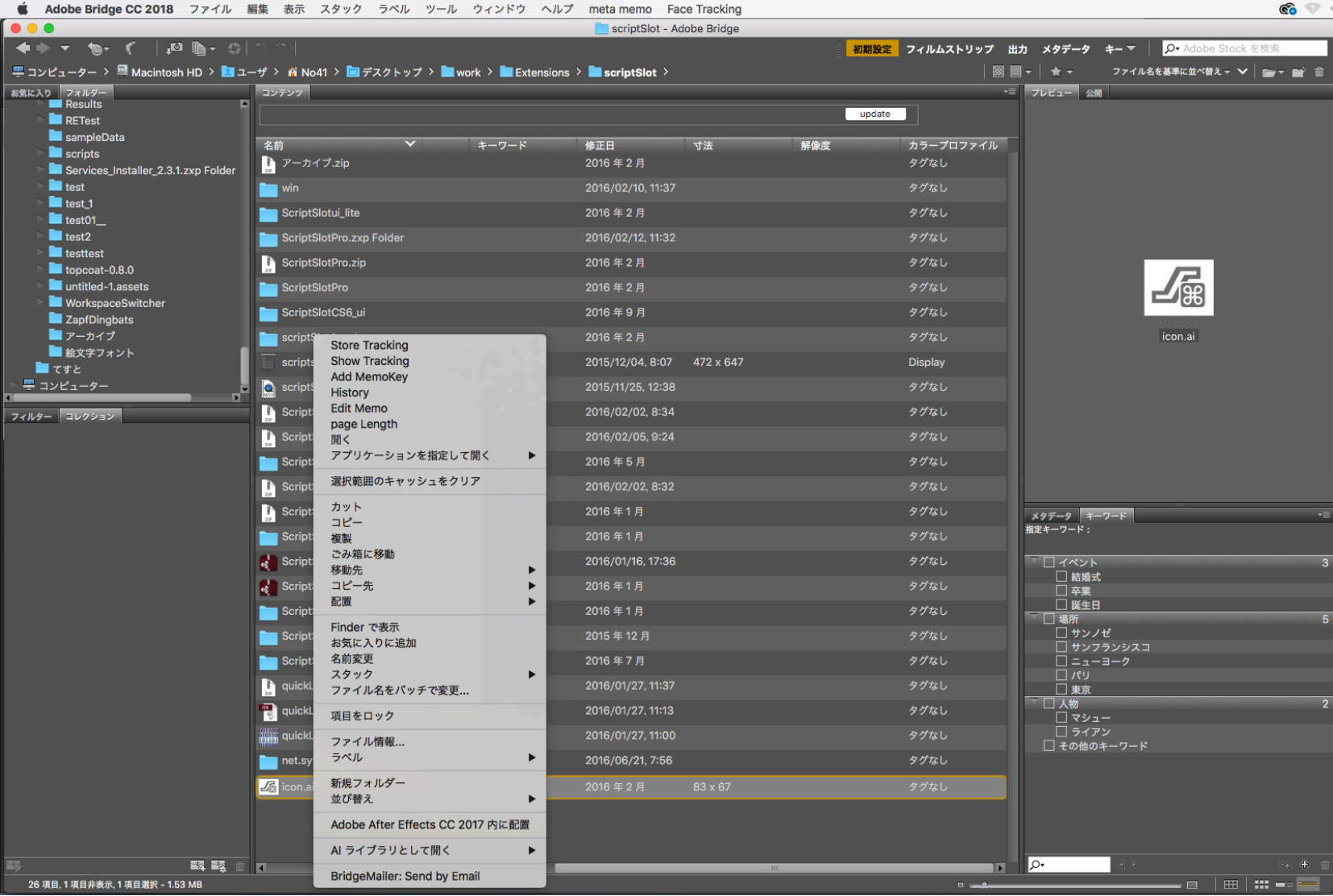
この様にヘルプの後に「TEST 」というメニューが追加されます。
コマンドを実行すると...



この様になります。

実際の運用例

最後に私のワークスペースを晒しておきます。



メニュー関連だけ見るとmeta memo用管理ツール及び顔認識機能の追加、各種編集機能及びE-mail機能がコンテキストメニューに追加されています。

これらのコンテキストメニューは今回のメニューと同様の手順で追加可能で、**location**指定時のターゲットの**id**を**Thumbnail/Open**の様に指定するとよいでしょう。

また、これらの機能拡張は全てExtendScriptによって書かれています。

640 Views Tags : menu, extendscript, bridge cc

0 Comments